

林 報恩講

法要

遊 煩悩 報

順正寺寺報

十一月三日(木)
午後一時より

読経
法話
おとぎ

報恩講は年内最後の法要で
す

宗祖親鸞聖人のご遺徳を
たたえ

ほとけと成られた故人に

今年一年を報告し、見護つて下
さった事に、また尊い仏縁を下
さっている事に感謝する

法要です

どうか万象繰り合わせのう
えご参詣下さい

十一月二十八日は宗祖親鸞聖人のご命日です。浄土真宗ではご命日に報恩講法要を行います。しかし親鸞聖人のご命日といってもピンと来ないかもしれません。歴史の教科書で見たくらいでは自分とは無関係と思われるかもしれませんが。

でもちよつと考えてみましょう。法然上人、親鸞聖人以前の私たちの祖先は私たち一般人が仏になれるなんて知りませんでした。前にも書きましたが平安時代中期、末期、鎌倉時代初期は我々庶民が今でいう普通に生きる事は大変難しく、親殺し、子殺し、窃盗、は極々当たり前で、飢えを凌ぐため肉を食べることさえあったようです。正にこの世が地獄そのものでした。生きるに地獄、死んでも地獄という際限なき絶望の中、刹那的な生き方しかできない時代だったのでではないでしょうか。そのような時に法然上人は「時処、諸縁」を選ばず一切の衆生（生きとし生けるもの）を救い取る「阿弥陀仏」の本願をあきらかにして、私たちのように仏道修行を勤められない者でも誰にでも出来る「お念仏を称える」という道筋で浄土に生まれ仏と成れることを教えて下さいました。

法然上人の弟子である親鸞聖人はそれまでの僧侶として

の生活を捨て、妻子を持ち、肉を食べるその当時の在野の人々と同じ生活の中でお念仏による成仏道を歩まれ、私たちが安心して生き、仏となれる道を身をもって実現して下さいました。

今、皆さんはお内仏（お仏壇）に手を合わすとき、（本来は御本尊阿弥陀如来に手を合わせるのですが、皆さん大概夫、妻、親、子等亡き人にと仰います、それはそれでいい）ある意味安心して手を合わせていませんか。亡き人が今はどうしているだろう、成仏できずに迷っていたらどうしよう、そんな不安に駆られることもなく仏様として手を合わすことができるのは法然上人があきらかにし、親鸞聖人が身をもって実践してくださった、阿弥陀仏の本願による救済の道があるからです。その教えを親鸞聖人と同じく身をもってあなたに伝えて下さった方々がいたからです。そこに安心できる人は今を安心できます。「報恩講」には是非ご参詣ください。ともに頂いたご縁に感謝いたしましょう。

合掌

住職

どうもここのところ余裕がない。

確かに仕事が忙しいというのものもあるが、そんなことではないようだ。

今日は一日、留守番以外はなにもないなあ、という日でもなんだかせわしない。気分が持ち上がらない。いらついている、始終。

なんでだろ？

何かをしても、何もしなくても、イライラ。更年期障害か???

ま、こんなことうじうじ考えていても、何ら解決はしないだろう。

でも、空いている道で車を運転している時は気分いいな。朝、余裕を持って写真を撮りに歩いているとだんだん気持ちが悪くなるよな。

なんのことはない。自分のペースでものが進んでいる時はよくて、それ以外の時は許せない気分になっているのだな。単純に、歳とって、いよいよわがままになってきているということのようだ。

じゃ、自分のペースってなんだろ？

とても気分良く過ごせた昨日と同じように時間が進もうが、事が進もうが、気分が悪い時は悪い。

自分のペースなどというものはないのだと思う。

幻想のように自分というもの縛られているから苦しくいらだつ。

人から用をたのまれる（ま、母から買い物とか頼まれることなんですけど、ぶっちゃけ）。何かしていろいろがしてしまいが、俺の気分の時以外の時に頼まれるとムカツとする。でも、それはどうせしなければならぬ。結局いらつきながらその用を済ませ、そのムカつきを引きずって時間を過ごすので、ますます気分には余裕なくいらつきながら時を過ごす。バカだね。

どうせやるのだし、「はい」と笑顔で引き受けて、笑顔で用を済ませれば、気持ちのいい時間を過ごせるのに。自分で自分の首を絞めているだけ。無駄な時間になっているのは自分自身だね。

じゃ、治せるかと言えば、まず治せない。

自分の心持ちひとつ、どうすることもできないということに気が付いていくこと、これ大事です。

親鸞聖人が教えて下さったことです。

仏法聞いていると、そのところに気付けるよ、と。

でも、やっぱ、まだ自分では自力でもってどうにかしたいと悪あがきしたい。よって、ここ半年でできなかった、写真サークルゆるゆるの「ゆるゆる撮影会」再開します、近々！自分の気持を持ち上げるため、という得手勝手。そこをお含みおきの上、是非ともご参加を、よろしくです。

詳細は、写真サークル「ゆるゆる」と順正寺のホームページに載せますので、是非、一緒にカメラ片手に出かけてみませんか？よろしくです。

卯美美（高1の娘）が文化祭の実行委員になった。中学の頃は中々主体的に物事に向かう方ではなくちよつと心配していたが自分からやりたいと言い、実際始まると遅くまで学校に残り楽しくやっているようだ。ただ先輩、後輩がいる部活のようなものは生まれて初めての経験なので多少の戸惑いはあるよう、また、先輩後輩に限らず同級生でも物事に向かう温度差はあるようで自分が思うように進まない事もあるがこれも初の経験だろう。ただ不平不満をたれながらも「すごく面白い」「めっちゃ充実している」と言っているの
で良い経験をさせてもらってるなと親としては嬉しい。

そんなある日、卯美美が学校から帰る早々

「今日、すごくむかついた」と話し出した。

「そうか、そりゃ腹立つな」なんて相槌を打っていると

「でもね、別に今は怒ってないし、すぐ、怒るのやめたんだよ。」という「むかむかして、ずっと不機嫌でいても周りも不愉快だろうし、私もつまらないから」

グサツ、グサツその後の卯美美の一言一言が私の心を抉る。申し訳ない。下らないことで不機嫌になって長引くのは私だ。

我を張って素直になれないのは私だ
大人げないのは私だ。

卯美美に反抗期らしい反抗期がないのはその所為かも知れない。だって反抗期は子供が大人に反抗するのだから大人げない大人には反抗しないよなあ。俺は反面教師かあ。私がかくたばる時「立派なお父さんでした」とは絶対に言われな
い。まあ、そんなこと言われたら気持ち悪いけど。

住職

住職からのお願い

今東京では火葬場が不足しています。皆さんご経験のとおり通夜葬儀の日程はお寺の都合より火葬場の都合が優先されてしまいます。その為ご法事の時間のお約束を頂いていても変更をお願いすることがあります。葬儀をお勤めすることはそのお家の方にとって一生の一大事です。そこは相身互い、どうかご寛恕下さいますようお願い致します

照文山 順正寺

東京都練馬区石神井町

3の17の4